

【NEWS RELEASE】

2024年9月16日

各 位

株式会社三井住友銀行

国際決済銀行のプロジェクト「アゴラ」への参画について

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：福留 朗裕、以下「三井住友銀行」）は、プロジェクト「アゴラ」（ギリシャ語で「市場」の意味。以下「本プロジェクト」）に参画いたします。

本プロジェクトは、国際決済銀行（Bank for International Settlements、以下「BIS」）、各国の中央銀行、国際金融協会（Institute of International Finance、以下「IIF」）が立上げました。今般、三井住友銀行を含む民間金融機関と合同で次の段階（トークン化を通じたホールセール※・クロスボーダー決済の改善の検討）に進みます。本プロジェクトは7つの中央銀行（フランス銀行（ユーロシステムの代表）、日本銀行、韓国銀行、メキシコ銀行、スイス国立銀行、イングランド銀行、ニューヨーク連邦準備銀行）と民間金融機関が協働するものであり、中央銀行は BIS が、民間金融機関は IIF が取りまとめを担います。

本プロジェクトは、BIS が提唱する統合台帳（Unified Ledger）のコンセプトに基づき、中央銀行と民間金融機関が共同で金融プラットフォームを利用し、トークン化された中央銀行マネーと商業銀行の預金をシームレスに交換する方法を検討します。この取組を通じて、中央銀行マネーと商業銀行預金の二層構造を維持したまま、通貨システムの機能強化とスマートコントラクト及びプログラマビリティを活用した新しい機能の提供を目指します。

本プロジェクトでは、特に現状のクロスボーダー決済の効率性の向上も目指しています。現在のクロスボーダー決済には、国や地域毎の法律や規制の相違、技術的課題、営業時間や時差等の課題があります。さらには、1つの送金に対して関係する複数の金融機関が AML/CFT 等の手続きをそれぞれ実施するなど、手続きの複雑さに関する課題を抱えています。

三井住友銀行は、本プロジェクトへの参画を通じ、クロスボーダー決済の抱える課題解決に寄与するとともに、クロスボーダー決済のサービス向上に向けた取組を続けてまいります。

※中央銀行及び民間金融機関の間での決済を指します

以 上